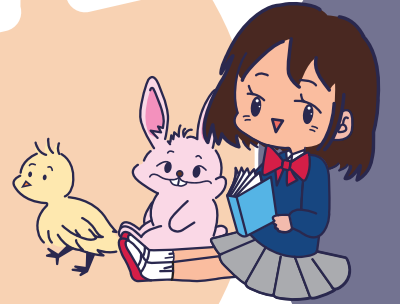


2021

岡山の高校図書館プレゼント

でーれーBOOKS



でーれーBOOKSとは () 岡山の高校司書による高校生向けのおすすめ本コンテストです

図書館には多様なジャンルの本があることを知ってもらいたい！という願いから、小説以外のおすすめ本を選考対象としています。岡山県高等学校図書館ネットワーク研究委員会が主催し、今回で8回目となります！

でーれーBOOKS2021は、コロナ禍で今までとは違う生活が求められる中、本を読んだ後に自らの人生を自分自身で考えて欲しいという希望が反映された選考結果になりました。

大賞

★大賞の著者からのメッセージと
司書のオススメコメントは裏面に！



『なんのために学ぶのか』

池上 彰 / SBクリエイティブ

2位



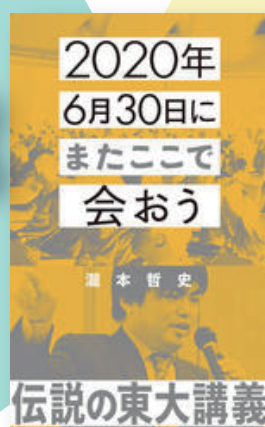
『タネの未来』

僕が15歳でタネの会社を起業したわけ
小林 宙 / 家の光協会

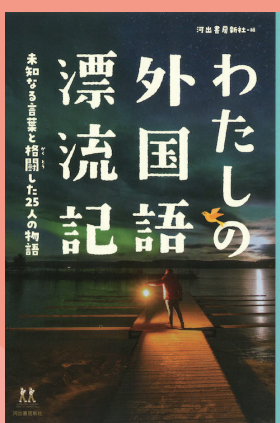
3位

『2020年6月30日に またここで会おう』

瀧本 哲史 / 星海社



ノミネート作品



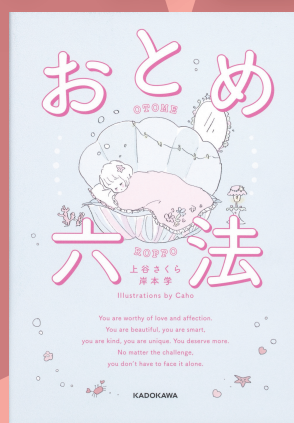
『わたしの外国語漂流記』

阿部 賢一[ほか](著)
河出書房新社(編)
河出書房新社



『なぜ僕らは働くのか』

池上 彰(監修)
学研プラス



『おとめ六法』

上谷 さくら、岸本 学
KADOKAWA



『ドラえもんを本気でつくる』

大澤 正彦
PHP研究所

大賞

『なんのために学ぶのか』 池上 彰 SBクリエイティブ



学びは人生の選択肢を増やすのだと実感。どの年代が読んでもいい本だけれど、選択肢が多ければ多いほど良い高校生の皆さんにまずは読んでほしい。何となく、とげのある池上さんの文章も面白い！笑えて、気持ちが前向きになる。/「実生活に役立つこと以外は無駄じゃないの？古典なんて勉強したって意味ないじゃん」と思っている高校生におすすめしたい。/ 学べることの幸せや学ぶ楽しさについて、読んでじんわりと感じてもらえたら。/ 学びは一生続いていくものだけど、それは自分がよりよくなるため、前向きに生きていくために必要なことで、いろいろな形の学びがあるということを教えてくれる。

著者からのメッセージ

なんのために学ぶのか。私も中学や高校時代、この疑問を抱きました。親に疑問をぶつければ、「大人になったらわかるよ」と言われました。たしかにその通りでした。でも、大人になる前に、皆さんにわかってもらいたいと考え、あえて書いてみたのが、この本です。中学や高校の教科書は、いまになって読み返すと、実によくできています。教科書をマスターすれば、無敵の大人になれます。社会に出てからも成長し続けるために学ぶのです。健闘を祈ります。

2位

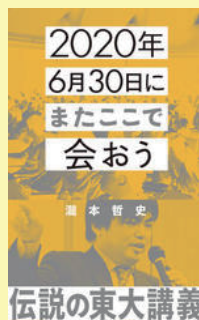
『タネの未来』 小林 宙 家の光協会



著者の熱意もすごいですが、それを支える家族の協力もスゴイ！また、タネについて貪欲に知識を吸収しようとする姿勢も見習いたい。/ 報道で、日本の農作物が海外において生産・販売されていることを見る機会がありました。是非、目を向けてほしい内容だと思います。/ しっかりと考えを持ち、行動できる15歳。若くて起業したからというだけで注目されたのではなく、目的を持って仕事をしている。地味だけど、実はとても大切なタネについても知ることができる。/ 自分なりに考え、行動する。簡単なようで難しいことを実現している高校生。強い思いがこめられているから、一気に読めます。

3位

『2020年6月30日にまたここで会おう』 瀧本 哲史 星海社



自分の人生を、自分で考えて、自分で決めて生きていくために、この本を。/ 本を読んだ後に行動することが大事だ！と強く教えてくれる本。著者の「君はどうするの？」にこたえられる人が増えるとよい。/ 大人が読んで参考になる。高校生の時に読んでいたら、人生が変わったかも…。/ エリートのための本かと思いきや、それに収まらない内容。誰にとっても心に刻める指針が書かれていた。そして瀧本さんから、この国に生きる若い人に向けてのエールを感じた。大人にも響くが、高校生には尚更お勧めしたい。

岡山の高校図書館プレゼント

2021 大賞 Books

2021 司書のおすすめコメント

『ドラえもんを本気でつくる』

大澤 正彦
PHP研究所



誰もが1度は思う「ドラえもんがいたらいいのに」が実現するかも。/ ドラえもんをつくる！というところから、人とAIの関りや可能性について凄く身近に思える1冊。/ AIについて詳しく知ることができる。ただの夢のある話で終わらない。ドラえもんがいる世界を実現してほしい。/ 小さい頃の夢をかなえるということ、また周りの人の助けを借りて作り上げていくということが素晴らしいと思う。

『わたしの外国語漂流記』

阿部 賢一 [ほか] (著)
河出書房新社 (編)
河出書房新社



未知なる言葉と格闘した25人の物語

身近な外国語である英語から、聞きなれない未知の言語まで、25人それぞれの外国語に対する思いが綴られた一冊。一つの編が短いので読みやすい。/ 目的があれば語学を手段として学ばざるを得ない。25人のさまざまな職業の人たちのさまざまな外国語との出会いが興味深い。/ 想像する「ことばと職業」が直に結びつくだけでなく、多彩な体験談が知れるのも良い！

『おとめ六法』

上谷 さくら、岸本 学
KADOKAWA



表紙のイラストから、女子の好きな「カワイイ」が伝わってくる。内容は法律関することでありながらも、女子にフォーカスを当てているので読みやすい。/ 法律を知っていることで、回避できることも多いのでは？と思い選びました。/ 女性であることで関わるかもしれないリスクを知識として学べる一冊。/ 犯罪から自分や友人を守るために、男女問わず読んでほしい本。

『なぜ僕らは働くのか』

池上 彰 (監修)
学研プラス



- 君が幸せになるために考えてほしい大切なこと -

進路に悩む2年生に読んでほしい。「やりたいことが見つからない」と逃げないためにも…/ 漫画やイラスト、振り仮名やカラフルなページに、「若者に絶対読んでほしい」という熱意を感じる本。その熱意と共に、重要なメッセージがミチミチに詰まっている。時間をかけて隅々まで読んでほしい。/ 学ぶことの先の人生に直結していて、自分の生き方をじっくり考えられる。